FUEL CELL POWER GENERATING SYSTEM

Patent Number: JP60158557 Publication date: 1985-08-19

Inventor(s): ITOU HIROSHI; others: 01 Applicant(s): MITSUBISHI DENKI KK

Requested Patent: JP60158557

Application Number: JP19840013691 19840127

Priority Number(s):

IPC Classification: H01M8/04

EC Classification: Equivalents:

|      |      | .1   | <br> | <u>.</u> |      | + , + |      |  |
|------|------|------|------|----------|------|-------|------|--|
| Abst | ract |      | <br> |          | <br> | <br>  | <br> |  |
|      |      | <br> |      |          |      |       |      |  |

PURPOSE:To surely monitor a crossover by installing an inflammable gas sensor and an oxygen sensor on a fuel electrode outlet side and on an air electrode outlet side respectively.

CONSTITUTION:An oxygen sensor 7 is installed on the outlet side of a fuel electrode 3a and an inflammable gas sensor 8 is on the outlet of an air electrode 3b. When air pressure exceeds fuel gas pressure, air is supplied to the fuel electrode 3a. The oxygen sensor 7 samples outlet side gas of the fuel electrode 3a, and when it detects oxygen in the gas, a protection circuit 9 gives an alarm and instructs an emergency stop. When fuel gas pressure exceeds air pressure, the protection circuit 9 connected to the inflammable gas sensor 8 gives an alarm and instructs an emergency stop. Therefore, safety of a plant is increased.

Data supplied from the esp@cenet database - 12

## 昭60 - 158557 ⑩ 公 開 特 許 公 報 (A)

@Int Cl.4

識別記号

庁内整理番号

匈公開 昭和60年(1985)8月19日

H 01 M 8/04 H - 7623 - 5H

審査請求 未請求 発明の数 1 (全3頁)

燃料電池発電システム 60発明の名称

> 創特 願 昭59-13691

29出 願 昭59(1984)1月27日

神戸市兵庫区和田崎町1丁目1番2号 三菱電機株式会社 宏 62発 明 者 伊 藤

神戸製作所内

神戸市兵庫区和田崎町1丁目1番2号 三菱電機株式会社 明 者 妙 輔 @発 中 Ш

神戸製作所内

三菱電機株式会社  $\mathsf{A}$ の出 顖

東京都千代田区丸の内2丁目2番3号

弁理士 大岩 増雄 外2名 倒代 理 人

明

1. 発明の名称

**瓜料電池発電システム** 

2. 特許浦求の億囲

燃料として水紫を主成分とするガスを、酸化 剤として空気をそれぞれ使用し、燃料極と激素 盛の間に選解質マトリクスを有する燃料電池発 催システムにおいて、上記燃料極出口側に改け られた酸素衡知器と、上記空気極出口側に設け られた可燃性ガス検知器とを備えたことを特徴 とする感料電池発電システム。

8. 発明の辞細な説明

〔発明の技術分野〕

この発明は、燃料として水素を主成分とする ガスを、蚊化剤として空気をそれぞれ使用し、 城村堰と望気堰の間に電解質マトリクスを育す る城府電池発電システムに関するものである。 〔従米技術〕

従米この値感科能他発電システムとしては才 1凶に示すものがある。

図において、川は改質器、(2)は転化器、(3)は燃 料钽他本体、(8a)。(8b)。(8c) は必料電池本体 改質器パーオ、(5)は空気極(81)に圧縮空気を送 るための圧縮機、(6)は助力回収用の膨脹機であ

次に動作について説明する。然料電池発電シ ステムの主な破器構成は才1図に示すとおりで あり、燃料は水蒸気と混合されて收質器川内で 水蒸気と反応し水栗を主成分とする改質ガスに たる。 収質器(1)を通過後の改質ガスは電池触媒 の娘媒権である一畝化炭素を含むので、転化器 (2) 内でさらに一般化炭素が二酸水炭素に転化さ れ、政質ガス内の一酸化炭素成分は許容量以下 に抑えられる。転化品(2)を通過後の改質ガスは 燃料電池本体(3)の燃料極(8a)に供給され、電解 寅マトリクス (8c·) 内の三相界面において城井電 他本体(3)の空気極(8b)からの酸素と反応し直流 **退流を発生する。反応に使用されなかつた余利** の改質ガスは、改質器パーナはに送られ、改賞 母川を加減するのに使用される。 改質 岩パーナ (1) において 添焼した後の 非ガスは、 反応に使用 されなかつた 空気と 混合され、 動力 回収用の 膨 酸 (6) に 送られる。 応 限 後 (6) は 滋科 値 他 本体 (3) の 空気 極 (8 D) と 改質 益 パーナ (4) て 必要 な 空気 を 任 稲、 供給する ための 圧 縮 機 (5) と 連結 されて お り、 この 圧 縮 機 (6) の 鉱 動 顔 と な つて いる。

(発明の概要)

(3)

ついて説明する。

動作についても基本構成に関する部分はオ1図 と同様である。先にも述べたように、燃料電池 の運転中に燃料ガスと空気との間に大きな差圧 が生じると、クロスオーバーが起こる。空気圧 が燃料ガス圧よりも過大になつた場合には、燃 料極 (8a) に空気が流れ込む。 燃料値 (8a) 出口側 の政案検知器(7)は、燃料値(Ba)の出口側ガスを サンプリングし、ガス中の激素を倹知すれば、 その政案検知器(7)と接続された保護回路(9)が道 ちに資報を発し、非常停止を行なり。逆に、城 科カス圧が空気圧よりも過大になつた場合には、 望気磁 (Bb) に滋料ガスが流れ込む。空気極 (Bb) (8)は空気を の出口側の可蒸性ガス検知器 (8b) の出口側ガス をサンプリングし、ガス中の可燃性ガスを検知 すれば、その可燃性ガス検知器(8)と接続された **以渡回路(9)が直ちに警報を発し、非常停止を行** なり。以上のようにクロスオーバーが生じると **直ちに検知器(7)、(8)が検知し、その検知に伴い** 保護回路(9)が必作して評報を発してシステムを

この税明は上記のような従来のものの欠点を 除去するためになされたものであり、 燃料 電池 本体の燃料 電出口側に酸素検知器を、 燃料 電池 本体の空気極出口側に可燃性 ガス 検知器を それ で記視することができる燃料 電池発電システム を提供するものである。

## 〔発明の実施例〕

以下、この発明の一実施例を図について説明する。才2図において、IIIないし(6)は上述した 従来例の解成と同様である。

(7) は 成科 単他 本体 (3) の 成 科 極 (8 e) 出口 側 に 収 り付けられた 酸 素 検知 器、 (8) は 空 気 極 (8 b) 出口 側 に 取 り付けられた 可燃 ガス 検知器、 (9) は これ ら 両 検知 品 (7) ・ (8) に 接 続 された 保 護 回路 で ある。

燃料電他発電システムの基本構成としては才 1 図と同様であるが、この発明においては、才 8 図に示すように燃料極 (8a) の出口側に改案検 知器(1) を、空気極 (8b) の出口側に可燃性カス検 知器(8)を備えている。この図に示すシステムに

(4)

非常停止するようにしているので、大事故を招 く 炒れが何号なく、従つて、ブラントの安全性 を 類 めることができる。

## 〔発明の効果〕

以上のように、然科電池本体の減科返出口側に酸素検知器を、燃料電池本体の空気極出口側に可燃性ガス検知器をそれぞれ設けたことによって、クロスオーバーを確実に監視することができる燃料電池発電システムを得ることができる。

## 4. 凶面の簡単な説明

才1 図は従来の燃料電池発電システムを示す 系統図、才2 図はこの発明の一実施例による燃 料電池発電システムを示す系統図である。

図において、(3)は燃料電池本体、(8a)は燃料 低、(8b)は空気極、(7)は酸紫検知*は*、(8)は可燃 ガス検知器である。

なお、凶中洞一符号は同一又は相当那分を示す。

代埋人 大岩 增雄



